

[成果情報名]水稲中生品種「恋初めし」の特性

[要約]水稲品種「恋初めし」は出穂期、成熟期とも「ヒノヒカリ」よりやや早い“中生の早”である。穂数はやや少ないが、千粒重が重く、精玄米重は「ヒノヒカリ」対比 115%と多収である。良食味で穂いもちに強く縞葉枯病に抵抗性をもつ。収量性が高く低価格帯の業務用米として導入効果が高い。

[キーワード]水稲、恋初めし、業務用米、多収

[担当]長崎県農林技術開発センター・農産園芸研究部門・作物研究室

[連絡先](代表)0957-26-3330、(直通)0957-26-4350

[区分]農産

[分類]普及

[作成年度]2020 年度

[背景・ねらい]

主食用米の総需要量は食生活の多様化などを背景に減少傾向が続いており、家庭内で米を炊飯し消費する量は減少する一方で、食の外部化に伴い、中食外食向けに供される業務用米の消費量は増加傾向にある。本県においても、業務用米の需要が拡大しており、業務用に向く品種の選定が急務である。

そこで、業務用米向けの多収で食味が良く病虫害抵抗性をもった品種を選定する。

[成果の内容・特徴]

「恋初めし（中国218号）」（あきだわら／中国201号（恋の予感）：農研機構 西日本農業研究センター育成）は「ヒノヒカリ」と比較して次のような特性を有する。

1. 出穂期で2日早く、成熟期で4日程度早い“中生の早”である（表1）。
2. 稈長は同等で、耐倒伏性は同等である（表1）。
3. 穂長は同等で、穂数は少なく、1穂粒数はやや多い（表1）。
4. 玄米の千粒重は重く、精玄米重は「ヒノヒカリ」対比115%と多収で、屑米重は少ない（表1）。
5. 検査等級は劣るが、食味は「ヒノヒカリ」並の良食味であり、多肥栽培においても食味の低下が起きにくい（表1、表2）。
6. 炊飯米の用途別適性としてはおにぎりや酢飯に最適であり、業務用としての適性が高い（表3）。

[成果の活用面・留意点]

1. 本情報は農林技術開発センター内水田（中粗粒グライ土）で得られた結果である。
2. 「恋初めし」は2020年度に本県の認定品種に採用予定である。
3. 穂いもちに強く、縞葉枯病に抵抗性を持ち、トリケトン系成分（ベンゾビシクロン、メソトリオン、テフリルトリオン）を含む除草剤に抵抗性を示す（育成地情報）。
4. 基肥を多肥にすると倒伏のおそれがあるので、窒素過多を避け、穂肥が施用できるような肥培管理を行う。
5. 株間を広く移植すると、㎡当たりの穂数、粒厚分布が低下し減収するおそれがあるため、疎植にしない。

【耕種概要】

移植6月15日、3本/株手植え、栽植密度30cm×15cm、窒素施肥量(kg/a)は標肥(基肥0.5-追肥0.2-穂肥0.3)、多肥(基肥0.75-追肥0.2-穂肥0.45)

[具体的データ]

表 1 生育・収量・品質と倒伏の発生

試験区	品種	出穂期 (月・日)	成熟期 (月・日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	1穂 粒数 (粒)	千粒 重 (g)	精玄 米重 (kg/a)	標準 比 (%)	屑米 重 (kg/a)	検査 等級	倒伏 程度
標肥	恋初めし	8.19	9.29	81.5	20.0	283	96.0	25.3	59.9	115	1.5	5.7	0.4
	ヒノヒカリ(標)	8.21	10.03	82.4	19.7	317	88.1	22.8	52.3	100	3.1	5.1	0.3
	なつほのか(比)	8.15	9.23	80.3	19.7	333	77.6	24.6	56.4	108	3.2	3.4	0.3
多肥	恋初めし	8.18	9.29	86.1	20.7	329	98.9	24.6	62.0	111	2.7	7.5	1.0
	ヒノヒカリ(標)	8.20	10.03	88.3	20.4	363	89.7	22.6	56.0	100	5.1	5.8	0.7
	なつほのか(比)	8.14	9.22	85.2	19.9	375	81.5	23.7	60.8	109	6.4	3.9	0.4
諫早市 小野島町	恋初めし	8.26	10.09	81.7	19.4	404	-	23.3	58.4	129	6.1	9.0	2.0
	にこまる(標)	9.02	10.18	83.7	18.1	339	-	22.4	45.2	100	7.1	5.9	0.0
佐世保市 江迎町	恋初めし	8.26	10.12	79.5	18.9	388	-	24.2	62.0	126	4.1	6.3	1.3
	ヒノヒカリ(標)	8.27	10.14	82.6	17.9	408	-	22.7	49.4	100	5.1	5.5	0.5

注)標肥(2015~2020年平均値)、多肥(2017~2020年平均値)、ただし、1穂粒数は2017~2020年の平均値、諫早市小野島町(2019~2020年平均値)は6月23日機械移植、栽植密度30cm×18cm、窒素施肥量(kg/a)は1.4、佐世保市江迎町(2017~2020年平均値)は6月17日機械移植、栽植密度30cm×18cm、窒素施肥量(kg/a)は0.6、検査等級は1(1等上)~10(規格外)の10段階評価、倒伏程度は0(無)~5(甚)の6段階評価

表 2 「恋初めし」の食味評価

試験区	実施月日	総合	外観	香り	味	粘り	硬さ	パネル数	
標肥	15.12.11	0.000	0.000	-0.300	**	0.200	0.200	-0.200	10
	16.11.24	-0.176	0.000	-0.176	-0.118	-0.059	0.235	17	
	17.11.24	0.042	0.125	-0.042	0.042	-0.167	0.125	24	
	18.11.22	0.000	-0.333	* -0.143	-0.095	-0.048	0.429	* 21	
	19.11.27	-0.222	-0.056	0.056	-0.056	0.167	0.444	* 18	
	19.11.29	0.000	-0.167	-0.056	-0.056	0.111	0.056	18	
	20.11.27	-0.050	0.100	0.000	0.200	0.150	0.500	* 20	
多肥	19.11.29	-0.056	-0.111	0.000	0.167	0.167	0.056	18	
	※1)20.11.30	-0.050	0.150	0.100	-0.150	0.150	0.250	20	

注)基準(0)は「ヒノヒカリ」、ただし※1)の基準(0)は「恋初めし」、総合評価・外観・香り・味は-3(かなり不良)~+3(かなり良い)、粘りは-3(かなり弱い)~+3(かなり強い)、硬さは-3(かなり軟らかい)~+3(かなり硬い)の7段階評価、**が1%、*が5%の水準で基準品種と有意差有

表 3 「恋初めし」用途別適性(業務利用向け水稻品種「恋初めし」栽培マニュアルから引用)

	用途	適性
温かい	白飯	○
	おにぎり	◎
冷たい	白飯	○
	おにぎり	◎
酢飯	握りずし	◎
	ちらしずし	◎
	押しずし	◎
	回転ずし	◎

注)調査は(株)アイホー炊飯総合研究所で実施。2016~2018年広島県福山市産米に対する評価。白飯とおにぎりは加水率100%、業務用丸釜炊飯器で炊飯した米飯での結果。酢飯は加水率90%、業務用IH炊飯器で炊飯した米飯での結果。
適性評価 ◎:最適、○:適性あり

[その他]

研究課題名: 稲・麦・大豆奨励品種決定調査、業務用米に適した品種の選定および安定生産技術の確立

予算区分: 県単

研究期間: 2015~2020年

研究担当者: 中山美幸、古賀潤弥